広報
下之郷
№32

発行日　２０００．10．25
編集　発行　郷づくり広報部会

＝自然を愛し　人を愛する
豊かな心を　育てよう＝

目次:

区民総参加の大イベント①第２４回区民運動会	1
区民総参加の大イベント②　百灯祭	2
ニュースフラッシュ７～８月	3
ひとづくりで路上駐車のない下之郷に	4
営農コーナー　水不足・カメムシでも豊作	5
ふるさと大発見　「中世の下之郷②」	6
読者のページ　短歌・クイズ等	7

私たちの区

２０００．７月末現在

*戸数　　２１３戸

*人口　　男４２３　女４７０
計　８９３人

区民総参加の大イベント①
＝第２４回区民運動会＝

天気予報では午後降雨と報道され心配しておりましたが、区民の皆様の精進と区長始め関係者の熱意が通じたのでしょうか予定通りに終了することができました。

いくつかの新しいプログラムも含め、楽しくにぎやかな一日となりました。また、各組テント内では和気藹々の談笑があり、区民全体の和が一層深まったのではないでしょうか。

あわてないで、落ち着いて、落ち着いて……
ウサギの島わたり

過去最高の１００名近くもの参加者で盛り上がりました。 **ジョギング大会**

スイスイとスティックを操る手さばき、見事でしたよ **ジグザグボール**

必死にパンに食らいつく二人。なんともほほえましい光景ですね。
パン食い競争

運動会の成績

優勝　１０組
準優勝　２組
三位　１６組
応援賞　該当なし

この運動会のために、不用品バザーにご協力くださった方々、本当にありがとうございました。中には手作りの作品まで提供下さった方もありました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

区民総参加の大イベント②
＝百灯祭＝

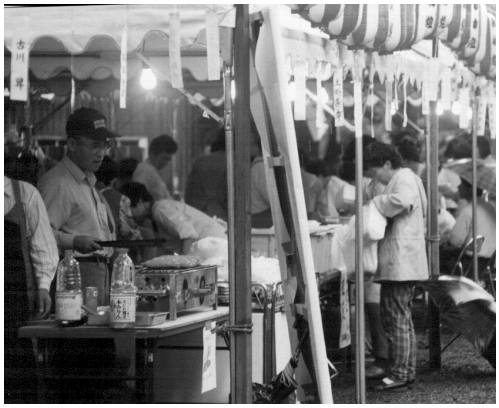
九月三十日（土）、午後二時から百灯祭献灯者（四九六燈）報告祭が奉行され、氏子の無事息災が祈願されました。

当日は、早朝から各小字宮世話さんや老人会員さん区役員さんの出役で舞台や出店の準備作業にご苦労をいただきました。ところが、あいにくの小雨で急遽演劇は拝殿で行うことになり、設備の移動が大変でしたが、夕方までには準備も整い、例年通り盛大に行われました。

終了前の江州音頭による踊りには小雨もありましたが、無事終了されました。関係者の皆さん大変ご苦労さまでした。また、小雨の中ご参拝下さいました氏子の方々、ようこそお詣り下さいました。

雨で寒かったおかげで商売繁盛
婦人会たこ焼き

雨の中、参拝に訪れた皆さん



たこ焼きに負けず劣らず、とうもろこしもおいしかったですね。

イベント部会焼きとうもろこし

雨も何のその。傘をさしての踊りの輪が二重にも広がりました。

江州音頭総踊り

ニュースフラッシュ7･8月

甲良町夏祭り

七月二十九日（日）、甲良町夏祭りが開催され、下之郷も例年通り参加するために、七月二十六日には集会所でふるさと音頭の練習、五月に播種以来順調に生育したナンバ（トウモロコシ）の収穫を二十九日午前七時から会場出店の準備には午前八時から、金魚すくいとナンバ売り場の準備等に取り組み、午後六時には総踊り参加者が揃いのハッピで出発し参加いたしました。

地蔵盆

八月二十日（日）、地蔵盆でにぎわいました。

前日から小学校ＰＴＡ役員さんや保護者の皆さんの出役で準備されて、当日は天候にも恵まれて賑々しく催されました。

地蔵堂の前には有志の供物やろうそくが献灯され、馬場には色とりどりの吹き流しが飾られ、出店にはおばあちゃんや子どもが並び、金魚すくいなどで賑わいました。

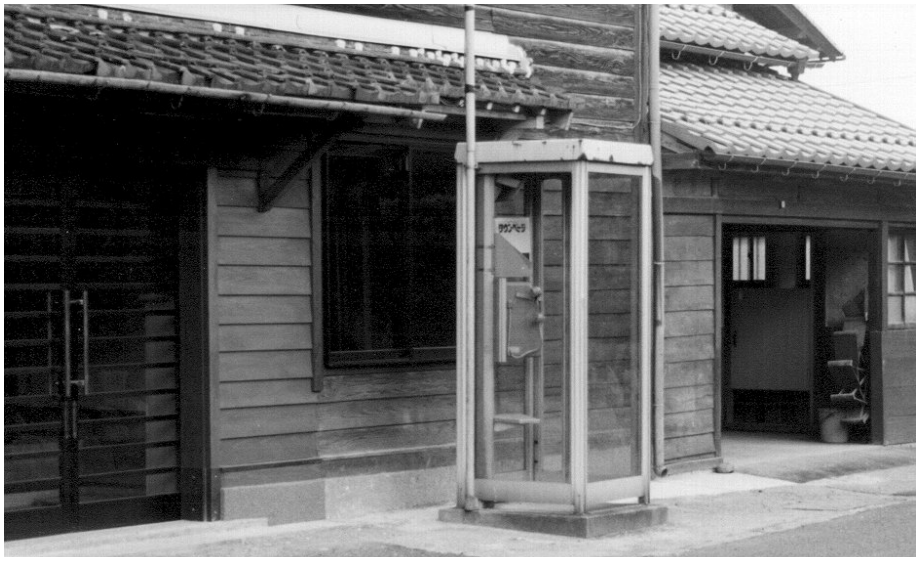
尚、公民館二階には小学生の書画、手芸クラブ員の手芸品が飾られて、夜遅くまで賑わいました。

下之郷福祉関係施設

旧公民館を主に下之郷福祉関係に利用できるようにと、昨年来町に申し入れをしておりましたところ、今年に入り町の事業として認可され、五月中旬から着工され、ほぼ完成致しました。

併せて、旧団体事務所も字事業として屋根葺き替えと、便所、土間等改修されました。いずれ、利用方法、規定等を設定し、また、開所式も十一月に予定されているようです。

開所されたら主旨に則り、規定等遵守して多数の字民の方々が利用してください。



ひとづくりで路上駐車のない下之郷に

私は、最近県内各地へ出向きます。その道中でこんな立て看板を目にします。
路上駐車のない○○○
駐車違反のない○○○

と書かれている集落があり、看板の出ている集落を道に迷いながら一巡することがたびたびあります。

すばらしいなと心新たにしながら帰宅するのです。下之郷の集落に入ると、至る所に路上駐車がありがっかりします。

下之郷は、圃場整備事業終了後、独自でいろんな施設を区民の総意と出役、協力により築いて参りました。

今日、日本各地から住民主体で取り組んだ施設などを見学、現地研修に来字されています。

滝と公園、水車と錦鯉、ミニ浄化槽、花壇等々を見てすばらしい集落だと、どうすればこんなすばらしい郷づくりができるのですかという質問が多いようです。

そこで問題、何年か前にも提言いたしましたが、どんな立派な施設でも、あるいは素朴な施設でも、それは点でしかありません。その点を線で結び、それを面にすることが肝要だと思います。それが本当の郷づくりの目的だと思います。そこで私見ですが、現在九百人の人々が居住していますが、社会形成上一番大切なこと、それは、一人ひとりの心の問題だと思います。

これからの下之郷郷づくりは人づくりを中心課題として第一目標にしてほしいと思います。

営農コーナー

水不足、カメムシでも豊作

＝米価下落　豊作貧乏＝

平成六年の再来かと思われるダムの水も減少の日々が続き、八月十日からは隔日給水となりました。加えて平年の十三倍というカメムシの大発生予報が出され、八月十二日には地上防除が実施され大減収が予想されましたが、農家の皆さんの懸命の努力が報われたのか、八月末には刈り取り（コシヒカリ）が始まり、順調に刈り取り作業が進みました。

作況は平年比一〇三％と豊作でしたが、検査等級は乳白米、胴割米が多くて二等米が平年より多い結果となりました。

全国的には豊作と備蓄米の増量などで米価が下落し、昨年価格より千五百円程度安くなることが予想されます。豊作貧乏とはこんな年のことを言われたのでしょうか。

水稲硬化苗の出荷後、耕起播種された黒豆も順調に生育したので、七月二日に第一回目の土かけ作業が営農クラブ員の手で行われました。

農業排水路清掃作業

八月二十日、午前八時より、例年通り排水路の清掃作業が実施されました。特に小字桂城地先排水路の道路側は川が広くて深く、法面が大きいので大変な作業であったと思います。

関係者の皆さん、大変ご苦労様でした。

中世の下之郷　②

川並稔男氏著「古代・中世の下之郷」より

ふるさと大発見

エーフのかつとり（エーフは永福寺？）

桂城神社の裏に「エーフのかつとり」があります。私の子供の頃は、神社の森が鬱蒼と茂って薄暗く、気味の悪い場所でした。そのエーフですが、一般に甲良地方特に下之郷の地名は中世の歴史の投影と思われるものが多いので、それから推測すると、エーフは永福寺がなまったものではないかと考えられます。

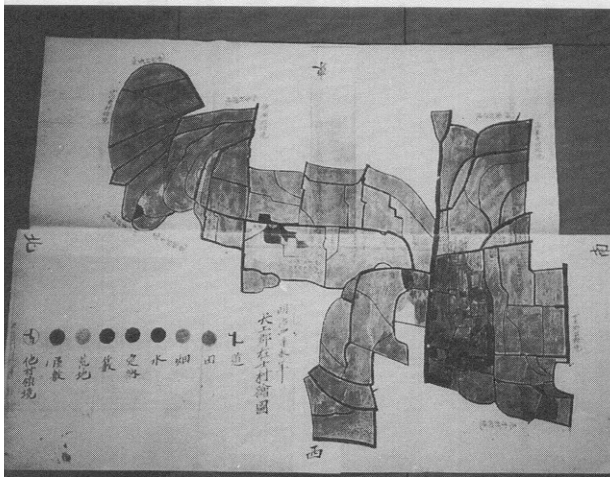
嘉承二年（一一〇七）奥州の覇者藤原清衡は五十二歳に達していましたが、平泉に大長寿院を建立しました。大長寿院は二階大堂と呼ばれ、高さ五丈（約十五m）本尊は高さ三丈、脇侍九体もそれぞれ一丈六尺の阿弥陀像であったといわれています。後に源頼朝が奥州に攻め入ったとき、この寺を見て感嘆し、鎌倉に戻るや永福寺をこれに模して造営したのです。人々はこれを二階堂と称しましたが、その規模は大長寿院を上回ることはできなかったと言われています。

さて、鎌倉幕府を支えた名族に二階堂出羽守堂薀という人がいますが、彼は一三三〇年に鎌倉幕府引付頭人に、一三三二年には、政所執事に任ぜられ、甲良荘に所領を持ち、下之郷に屋敷を構え、鎌倉をしのんで永福寺を建立したと考えられます。

鎌倉幕府創設から四百年にわたり佐々木氏は近江の国を支配しますが、甲良地方は、六角、京極両氏の境界線に近く、しばしば両者の勢力争いの場となりました。加えて下之郷には京極家の重臣、多賀氏の居城があったことから、度々戦禍をこうむったのでした。さらに、永禄十一年織田信長は、弱体化した佐々木氏に取って代わり、近江を制覇し、続いて天下を統一しました。天正四年（一五七六年）信長はそのあかしとして安土に城を築きますが、源頼朝の故事にあやかって、その城下町に二階大堂を建てることを思い立ち、由緒ある二階堂佛を持ち去ったのです。安土浄厳院の本尊がそれだと村の古老は言い伝えています。

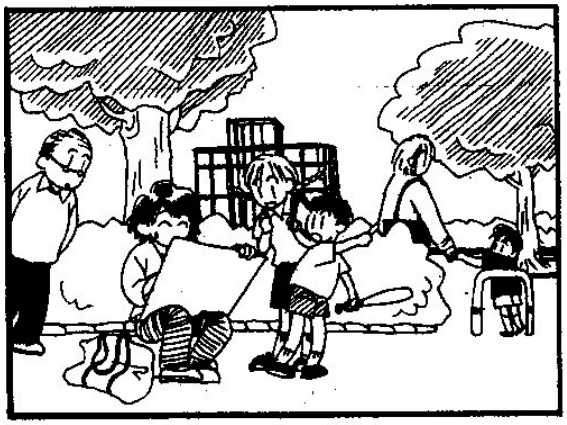
ところで、まぼろしの二階堂永福寺はどの辺りに建っていたのでしょうか。明治四年に書かれた在士村の絵図には下之郷村との領境に「永藤」田三反四畝……と書かれていて、下之郷の小字二階堂に隣接した区域（エーフのかつとり付近）であることが知られ、永藤＝永福寺である可能性も大きいと思われます。

エーフのかつとり　後方は桂城神社



読者のページ

クイズ　まちがいさがし



上の二枚の絵にはちがうところが７ヶ所あります。見つけて下さい。
　答えのわかった人は解答用紙に書いて、集会所まで。正解者には粗品進呈。

前号のクイズ正解者

二階堂　弘子さん

「こんかいのまちがいさがしはむずかしかったです。」

短歌クラブ　九月の詠草から

秋呼ぶか風船かずら二つ三つ　農小屋にのぼりて赤く染まれり　川並　克子
大正琴窓辺によりておけいこを始めれば法師蝉和してくる　川並　千町
「又逢おう」に「生きていたら」をつけ加え今年も減りしクラス会終う　川並みよ子
島離れ泣きつつ別れる幼児らを見送る親も汗涙して　藤居　和子
曾孫の誕生日が三回目腕白すごくされどたのもし　古川　ふさ
半月に涼しくなりてこおろぎも虫もおとずれ秋のけはいす　上野たつの
ひと夏を夫が手がけし瓢箪の形（なり）良き七つがわれを励ます　上野二紗絵
空仰ぐピンク色の百日紅かんかん照りの庭の輝き　上野　文子
陽光に稲束持ちて汗ぬぐいいちぢくの木陰に実り楽しむ　上野　りゑ
炎天にクレーン車大きく円をかき槌音高く棟上がりゆく　堀川　文江

編集後記

猛暑の夏もいつしか過ぎ、朝夕肌寒さを覚える今日このごろです。秋の取り入れも済み、百灯祭・運動会と区の大きな行事も成功裏に終わりました。

次号は早、新年号となります。新世紀初の広報、斬新な企画を工夫したいと思います。

ご期待ください。